



オトナのふるさと学習

月刊このへん だいすき 9月号

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
 いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
 最近引越してきたあなたも ドキドキ♪
 生まれてこのかたずっと「このへん」なあなたも
 読めばたちまち、「このへん だいすき」に



ある人のおかげで、百年前から 村人全員が共通語ペラペラ 「このへん」に実在した 奇跡の標準語ムラのいま。

ある人のおかげ

明治7年、今の横手市増田に生まれ、東京で標準語(共通語)を学んで、村の母校で言葉の指導に取り組んだ遠藤熊吉が奇跡の主人公だった。

共通語ペラペラ

お国言葉の統一をはかる明治政府は共通の言葉「標準語」を作って広めた。明治時代の標準語ペラペラは今だと英語ペラペラくらいの衝撃があった。

奇跡の標準語ムラ

明治22年に吉野村や狙半内村など、5つの村が合併してできた西成瀬村(今の横手市増田町の一部)こそが、全国に知られた標準語ムラだった。



かつて標準語と呼ばれていたきれいな共通語。ジャンゴ衆には奇跡のようなあこがれでした。集団就職が盛んな昭和のころには、方言やナマリを苦にして自殺者が出る騒ぎもありました。しかし、今から一世紀以上前の明治時代の増田の小学校で、使命に燃えた若い先生が奇跡を実現させていました。

東京で言葉を本格的に学んだ遠藤熊吉の標準語教育は、発音を口の形から指導する合理的なもので、村はたちまち共通語を話す子どもたちであふれます。

家庭では心を伝える方言を尊重し、必要な場面では共通語を話すという熊吉の指導を受けた卒業生が、約半世紀にわたり送り出された奇跡の西成瀬村。

普段はジャン語使いでもいざとなればキレッキレの共通語を話せるバイリンガルたちが住む標準語ムラとして、全国に注目されることになったのです。

熊吉さんが愛した奇跡の村には、今も熊吉さんをたたえる言葉の碑が建っています。

POINT!

横手市増田の旧西成瀬村は、教師遠藤熊吉の熱心な指導で、明治時代から村人が共通語を操る「奇跡の標準語村」と言われた。

